

we design your home and life style. impression for life, to you.



あらためまして、ビマスです。 私たちらしく、みなさんとともに。

1991年創業の株式会社ビマス。社長の青島康夫が前身の会社を一人で引き継いでから、いまや総勢14名の家づくり集団に成長しました。凜とした家建てたい。それが、ビマスの家づくりの想い。創業以来、一貫して変わりません。その原点にあるのが、青島の「娘に恥ずかしくない仕事をしたい」という気持ちです。そう、家というのは、必ず人の目に

ふれ、後々まで残るものですから。もう一つ、私たちが大切にしているものがあります。家という器ではなく、暮らしの空間をつくるという意識。それは、ビマスの心ともいえるべきものです。住む人が満足し、見る人が憧れる、そんな家をずっとつくり続けています。



ビマスの「いま」を伝えたい。 お客様の信頼を得るために。

オーナーのみなさんにビマスの「いま」を知っていただきたくて、社報誌kotonohaを創刊しました。ご自宅を建てた当時のビマスは、よくご存じでしょう。だからこそ、家づくりを任せてくださったはず。でも、それ以降のビマスは知らない可能性がある。家の引き渡しと同時に、ビマスとの関係は終わりという考え方もあるとは思いますが、しかし、それではあまりにも寂しい。わが家にはビマスがいるから安心だと思って暮らしていただきたい。そのためには、いまのビマスを知っていただく必要があると考えています。

社名には、みなさんの快適な暮らしのために、私たちがいるという意味があります。「協力して (between us)」「私たちらしくありたい (let it be us)」という思いも込めました。ビマスがビマスらしくあることで、お客様が信頼して家づくりを任せてくださると考えています。家という大きなものを扱っているからこそ、信頼は責務といえるでしょう。

株式会社ビマス
代表取締役 社長
青島 康夫

1961年生まれ、54歳。東京都出身。高校卒業後、呉服関係の会社に入社。営業の基礎を学ぶ。その後、転職先での縁により、ビマスの前身の会社に就職。1991年より現職。2015年5月現在、建てた住宅・店舗は900物件を超える。1,000物件をめざして邁進中。

ただいま動画、制作中!



「ビマスの心」を伝えるために。

5月19～21日の3日間、コンセプトムービー「それぞれの帰る場所」の撮影を行った。俳優・撮影スタッフ総勢20名が札幌から函館入りし、ビマス社内での収録のほか、市内各地でロケを敢行。本格的なものである。また、主人公たちの自宅は、実際のオーナーさん宅をお借りするという凝りようだ。撮影に同行した広報の菅原は、「撮影は早朝から深夜に及び、大変だったけど、いいものが撮れたよ」と、自信をのぞかせる。近日公開!とりたいところだが、実は社内用。会社の理念を社員に伝えるためのものなのだ。しかし、公式サイトでダイジェスト版を公開予定。お楽しみに!



my sweet house

owner's interview

どこにもない
「白い家」。
見果てぬ完成へ、
まだまだ進化中。

vol.1
owner
Yさま



人と同じは絶対にイヤ。
家だって見た目は大切。

コンクリートのパーテーションの向こうに、白いキューブ。洗練された佇まいは、人が暮らす住宅というよりもモデルハウスのようです。すっきりとして生活感が感じられないのは、家の正面に窓がないからかもしれません。そんな個性的なYさま邸は、オープンハウスの時も大人気だったそうです。

「人と同じはイヤなんです」と、ご夫婦は口をそろえる。残念なこと、どの家を見学しても、どれも同じに見えたそう。「ビブホームズは、外観がめずらしく、内装を自由につくれるのが気に入りました」と、ふたりは言います。

家具に合う家にしたかった。
希望とコンセプトが合った。

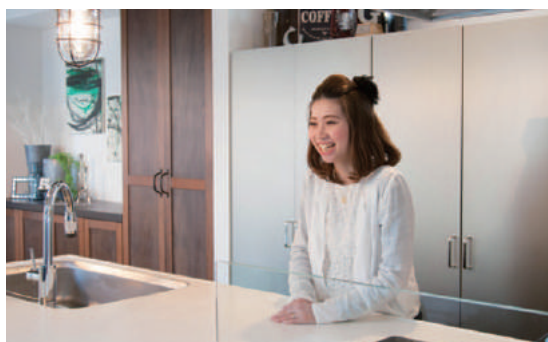
家具に合う家。これはビブホームズのコンセプトですが、それはご夫婦の希望でもあったと言います。家具が好きなおふたりは、家を建てる前から、気に入ったものを買って置きました。「ソファやダイニングテーブルは、前から使っていたものです。でも、住んでいた賃貸の家の床にはどうしても合わなくて。家を建てるなら、家具が生きる家になろうと考えていました」と、ご主人。

ピラスには系列のインテリアショップ「アンティークテ」があり、好みにぴったりのアイテムを提案してくれるのも魅力の一つだったようです。

夫婦のお気に入り、
ピラスのこだわり。

黒い鉄と木の階段。それが、リビングとキッズコーナーをゆるやかに区切っています。階段をのぼりきったところ、ちょうどキッズコーナーの真上に書斎があります。「キッチンから見えるようにしたんです。妻が料理をしながら、子どもを見られるように」と、ご主人は説明してくれました。

空間を印象的にしているのが、階段を支える壁。構造上どうしても必要ですが、一般的な資材とありきたりの壁紙ではつまらない。ピラスに提案されたのが、「黒い鉄の壁」。住宅にはめずらしい資材が、夫婦の心をとらえました。



もっと手を加えたいくなる。
もっと家っぽくなる。

ふたりがはじめてピラスを訪ねた時、自分たちの希望は伝えたと言います。念のためにリスト化して、1週間後に再訪すると、設計図には希望がすべて盛り込まれていました。「青島社長と森山専務のセンスの良さに驚きました」と、奥様。そのセンスを信頼して、家づくりを任せました。

奥様の自慢は、キッチン。合板なのにステンレスのような質感の収納棚が、お気に入りです。「天井を変えて、もっとインダストリアルっぽくしたい」と、奥様はこれからの計画を楽しそうに話してくれました。



1.「家具から発想」でデザインされたダイニング。お気に入りのアート作品が彩りを添える 2.ここからの眺めが、ご主人が一番好きなのだという 3.吹き抜けに美しい階段が映える。踊り場の書斎は奥様のアトリエ 4.キッズコーナーの壁は塗装した古材。これで夫婦はアンティークの良さに目覚めた 5.コンクリートのパーテーションが玄関を、白い壁が庭を隠し、生活を守る

IT'S SWEET POINT!

家に合わせたオリジナルの建具

Yさま邸のsweet (すこい!)は、建具です。既存のものはデザインや色が家に合わず、すべてをフルオーダーメイドに。キッチンの収納やダイニングのキャビネット、室内ドアなど、空間の雰囲気をごそなわないように、職人さんが一つひとつ造りました。だからこそ調和のとれた空間になっています。

今回のsweet houseは

b.i.v HOMES <ビブホームズ>

このブランドのコンセプトは、「白」をデザインした住宅。特徴は、①白い外壁 ②空間のゆとり(間仕切りとしての壁を減らす) ③家具に合うデザインです。スタイリッシュでクールな家を理想としている方に好まれています。





SHOP MEMO

【オーナー】高谷 将 Masaru Takaya
 【ブランド】インターデコハウス
 【タイプ】店舗併用住宅

ようこそ、beusな店へ

女神のような気分になれる、
より美しい自分に出会えるサロン。

MIEUXS - ミュウズ -

hair salon

今年3月、函館市昭和に愛らしい美容室が誕生した。MIEUXS(ミュウズ)、フランス語の「よりよく」と英語の「女神」の意味をもつ。オーナーの高谷さんは、自宅を新築するのをきっかけに、独立して自分の店をオープンさせた。

「自分好みのシックな雰囲気にするつもりでした。でも、お客様に喜んでいただけるものと考えたら、こうなりました」と、高谷さん。やはり建物だって、見た目も大切。外観を見て気になったと、予約してくる人もいるという。店内は、白を基調とした上品でデコラティブな空間。一番こだわったシャンプースペースは、コンパクトながらも個室で落ち着く。その名のとおり、より素敵な自分に出会えそうな美容室である。



SHOP DATA

MIEUXS (ミュウズ)

函館市昭和1丁目1-18
 0138-87-2508 090-8909-4788

営業時間/10:00~(予約制) 定休日/不定
 駐車場/3台

Menu/カット:一般3,780円 カラー:5,400円~
 パーマ:8,100円~ セット:2,160円~
 トリートメント・ヘッドスパ:3,240円~

ハコダテノ建テモノ

hakodate architecture spot

レンガは建設当時のもの。
規制があるから美しいまま。

美しい建物、めずらしい建物があれば目を奪われ、構造が気になり、資材をたしかめたい。それが、建築家。そんな建築家が、函館の建物をマニアックに調査！今回は、「金森赤レンガ倉庫」。広報担当の奈須川ゆかりさんにお話を聞きました。



実は、奈須川邸もピアス製

レンガは建設当時のままのものですか？

明治42~43(1909~1910)年に再建された時のままです。金森倉庫の創業は、明治20年。その建物は、明治40年の大火で消失してしまったのです。火が燃え広がった原因は屋根と考えられたため、再建時には、天井板の上にレンガを敷き詰めるという方法がとられました。現在は、レンガを取り外して、防水パネルや鉄板に代わっています。当時と違うのは、屋根と補強用の金具だけです。

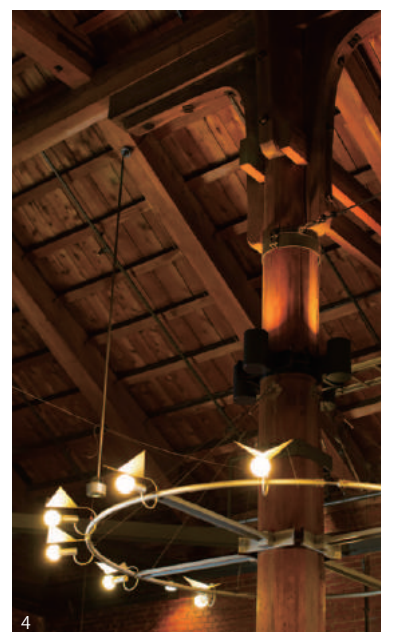
現在の耐震強度にも対応していますか？

南西沖地震にも東日本大震災にも耐えました。驚くのは、建築当時の技術。しなやかに造られているようで、揺れても元に戻り、折れたり崩れたりしないのです。柱も頑丈で、いまのところ、大規模な改修は必要ありません。お客様の命に直結するので、日々の点検は欠かせません。金森倉庫は、函館市の伝統的建造物に指定されています。そのため、市の規制や指導に従って管理しています。規制があるからこそ、美しい景観が保たれていると思います。

金森赤レンガ倉庫

以前の金森商船株式会社の営業倉庫。現在は「BAYはこだて」「金森洋物館」「函館ヒストリープラザ」「金森ホール」から成る商業施設。レンタル倉庫として営業中。

■見学/商業施設は自由 ■料金/入館無料 ■閉館時間/9:30~19:00 ※季節による変動あり
 ■アクセス/市電・十字街電停下車、徒歩2分



1. 金森ホールのレンガの積み方は、堅固な「イギリス式」。壁の厚さは50cmもある 2. 入口上部の番号は、倉庫業の名残。この番号を目印に荷物の出し入れがおこなわれた。馬車が入れるように内部は広い 3.「梁で屋根を支える構造は、現代では考えられないそうです。当時の技術には驚かされてばかり」と奈須川さん(写真は金森ホール内) 4. 一本の檜をまるごと使用した柱。荷物を引っ張る道具「のっこ」を引っ掛けた傷跡など当時の面影は、函館ヒストリープラザ内の函館ビヤホールで見られる



INTERIOR+

ビースの家をビースらしくしているのは、インテリア。
今回はコーディネーター鈴木が惚れ込んでいるアイテムをご紹介します。
お気に入り一つプラスして、暮らしをより美しくしませんか。

#1: 多肉植物

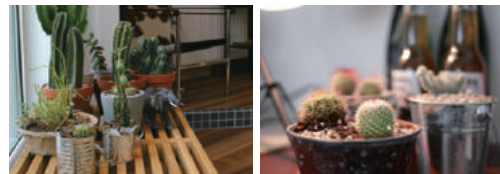
夏だから、可愛クールに。

多肉植物って、器でいろいろと表情が変わるので、幅広いコーディネートができるんです。それが魅力ですね。手がからないのに、がんばって育ててくれるところも、かわいい。ただ、寒さと水に弱いので、気温と水のやりすぎには気をつけてくださいね。

ビースのオープンハウスには、おすすめのインテリアを置いています。以前は造花でしたが、いまは多肉植物を飾っています。本物はいいですね。個性があるのは、建物と同じかな。オープンハウスごとに買い足し、増やし続けた多肉たちは、うちで育てています。もう置く場所がない…。愛しの多肉に囲まれて幸せですが、自宅は寒いので、次の冬、この子たちとどうやって過ごすか…目下の悩みです。



コーディネーター鈴木恵李のひとつとアドバイス:100円ショップにも売っていますから、お気軽に多肉ライブにトライしてみてください。



ホビーのススメ

hobby 1: ルアーフィッシング



今回の推薦人
原川 光洋

釣具屋さんに行くと、新しいルアーをチェックしてしまいます

だから、おすすめします！
とにかく無心、ときおり興奮。

5~6年前、友人に誘われて、ルアーフィッシングを始めました。静かなところが好きなので、すっからはまっています。

基本は溪流釣り。夏場は、2~3時間歩いて上流まで行って釣ります。この時期は、ブラウントラウト(マスの仲間)やイワナが釣れます。アブに悩まされるのは、ちょっと…。虫除けなんて効きませんから。気をつけているのは、クマ。普通に痕跡を見かけるので、それを見つけたら、引き返しましょう。

人が入っていない未開拓の場所をいろいろ探してみてください。釣りがいっそう楽しくなると思いますよ。

自慢アイテム:ルアー



beus news

1.公式サイト、リニューアルしました。

2010年から続く弊社ウェブサイトが、5月に全面リニューアル。いままで以上に、イベント情報や施工事例が見やすくなりました。さらに、弊社の大切なパートナーである職人さんのプロフィールを追加!なつかしい顔に再会できるかもしれません。また、オーナー様にご協力いただき、「お客様の暮らしぶり」をご紹介します。ほかのオーナー様は、どこにこだわったのか、なにを工夫しているのか。みなさんの暮らしのヒントになるかもしれませんね。

公式サイトはコチラ → <http://www.beus.jp>

2.シャビーシック、体験できます。

エスプリがきいたパリのアパートマンを思わせるデザインで人気のインターデコハウス「フレンチ」。桔梗フレンチ・モデルハウス(函館市西桔梗町)が、生まれ変わりました。アンティーク調の家具とエレガントなファブリックをミックスさせた、おしゃれパーソンに人気のスタイル「シャビーシック」。フェミニンとインダストリアルを組み合わせた、大人可愛い空間に遊びにきてください。

見学の受付 / 公式サイト or Tel 0120-56-0188



みさお、夏の一读

「女を磨くココ・シャネルの言葉」

高野 てるみ 著 (マガジンハウス)

ある年の誕生日、ある人が贈ってくれた本。シャネル…あまり縁がないなあ。放置すること数カ月、贈り主の「読んだ？」にあわてて読む。わ、シャネルがっつい!

「体の動きは背中が一番よく現れる」。…ドキッ!お客様やスタッフに、働き方やほかの人との接し方を見られていると思ったら、耳が痛い。「出かける前に何か一つ外したらあなたの美しさは完璧になる」。…よくわかる!家のデザインやインテリア、机上では、つい何でも足したくなる。でも何かを外すと、現場で、やっぱり正解!と思うことが多い。

読むたびに、叱咤激励されて気持ちがピンとなる。今や、繰り返し開く大切な一冊になった。
(専務/森山 操)



うちって、夏になると 野菜畑ができる会社。

駐車場のサイドスペースを活用して、野菜やお花を植えています。お客様の目を楽しませたり、自分たちの気分転換のために、3年くらい前にはじまりました。朝の清掃の時に、外担当のスタッフが水やりや雑草取りをしています。収穫した野菜は、スタッフ全員でいただきますよ!
(ホームアドバイザー/小酒 春菜)

NEW!

ブランディングチーム

ビースが、札幌で活動する映像・写真・ウェブ・デザインのプロとタッグを組んで、ブランディングチームを立ちあげました。公式サイトもkotonohaも、ここから生まれています。



株式会社 ビース www.beus.jp

TEL 0120-56-0188

〒042-0942 函館市柏木町1-12

TEL0138-56-0555 FAX0138-56-0777

INTER DÉCO HAUS COZY

b.i.v HOMES b-maison

-ビー・メゾン-